Beeプラン始動！
～北西圏域の災害時公衆衛生支援システムの構築に向けて～

北多摩西部保健医療圏

実施年度	開始　平成２５年度、　終了　平成２７年度
背景	当保健所は、「Beeプラン」を通じ、大災害により圏域が大きく被災した場合の災害時要援護者対策等について、平成23年度から地域保健医療協議会等で検討を重ねてきた。 一方、平成25年6月に災害対策基本法の一部改正があり、市町村の責務が明確化され、「地域における保健師の保健活動について（平成25年4月厚労省通知）」において災害対策に関し明示され、保健師の災害時保健活動について検討する重要性が高まっている。 このような状況から、課題別推進プランでは、「効果的な災害時保健活動に向けた取組」に焦点をあて平成25年から3年計画で実施することとした。
目標	○災害発生時に迅速及び適切な保健活動を展開するための保健師の能力向上 具体的な行動イメージを作るために市とともに「発災時保健師行動カード」を検討･作成し、市の状況に応じた訓練を実施する。 ①　「出張ＨＵＧ研修」の継続（残り４市） ②　「発災時保健師行動カード」の作成・訓練の実施
事業内容	【平成25年度】 ・圏域各市の地域防災計画等、基礎データの情報収集等 ・市保健師が災害時の役割について認識を深めるための研修の開催 【平成26年度】 ・「北多摩西部保健医療圏HUG研修」の実施 ・昭島市にて、「発災時保健師行動カード」（以下、行動カードという）作成に向けた検討会を昭島市と保健所で開催し、「昭島市版行動カード」を作成した。 【平成27年度】 ・「昭島市版行動カード」を用いたシミュレーション訓練の実施 ・「昭島市版行動カード」をもとに、シミュレーション訓練の実施に向けて検討し、実施に当たっては、現場設定を昭島市の事業運営や職員配置に近い内容とした。 ・「北多摩西部保健医療圏版HUGの研修運営の手引き」作成 ・出張HUG研修の開催（３市、１区及び保健所１回開催）
評価	平成27年度は、出張HUG研修を３市、１区で開催し、保健所でも１回開催した。開催に当たっては、多職種で実施した市、分散配置された保健師を集め実施した市と様々であったが、参加者が災害時保健活動を具体的に進めていく機会となった。 また、「昭島市版行動カード」に基づく災害時保健活動を想定したシミュレーション訓練を開催した。対象は圏域６市の健康・障害・高齢・災害対策主管課の職員計３３名が参加した。シミュレーション訓練では昭島市の保健センターで実施できたことで、より臨場感のある内容となり、行動カード作成に取り組んでいない参加者も行動カードに基づいた災害時保健活動をイメージできた。 当所における３年間の取組は、各市がHUG研修やシミュレーション訓練に参加することで、圏域６市全体の災害時保健活動を推進することができた。 今後、今回の昭島市における取組をモデルに圏域の他市にも普及していくことで、更なる効果的な災害時保健活動の推進を図っていく。
問い合わせ先	東京都多摩立川保健所　企画調整課　企画調整担当 電　　話　　０４２－５２４－５１７１（代表） ファクシミリ　　０４２－５２８－２７７７ E-mail　　S0000346@section.metro.tokyo.jp

Bee プラン始動！

～北西圏域の災害時公衆衛生支援システムの構築に向けて～

多摩立川保健所　企画調整課　企画調整係

1　本事業の目標

3 年間の「効果的な災害時保健活動に向けた取組」における目標

（1）圏域の保健師が災害時保健活動について具体的なイメージを持ち、自らの役割についての認識を深める

（2）災害時に迅速な初動活動を行うための保健活動体制の構築に向けた取組を行う

2　３年間の取組の内容

（1）　平成２５年度

圏域各市の情報収集と圏域各市保健師の意識啓発を目標に、①事業実施における実施体制の調整と意識の共有化、②災害時保健活動に関する研修会の実施、③圏域各市の地域防災計画などの基礎情報の収集及び確認に取り組んだ。

（2）平成２６年度

①「北多摩西部保健医療圏版 HUG 研修」の企画

研修の参加者が、主体的に災害時保健活動の課題や必要な準備を考える機会となるように、プログラムを再構成した。また、静岡県が開発した「避難所 HUG」で使用するカードを、圏域の特性に合わせて改編し用いた。（静岡県の使用許諾番号：002 号）

②発災時保健師行動カード（以下「行動カード」とする）の考案

都の保健師のこれまでの被災地支援の経験や、各種のマニュアルのエッセンスを盛り込んだ「行動カード」を考案し、市へ提案した。行動カードとは、統括保健師や避難所担当等の役割毎に、取るべき具体的な行動を A4 版 1 枚に記載したものである。

③「行動カード」の作成支援

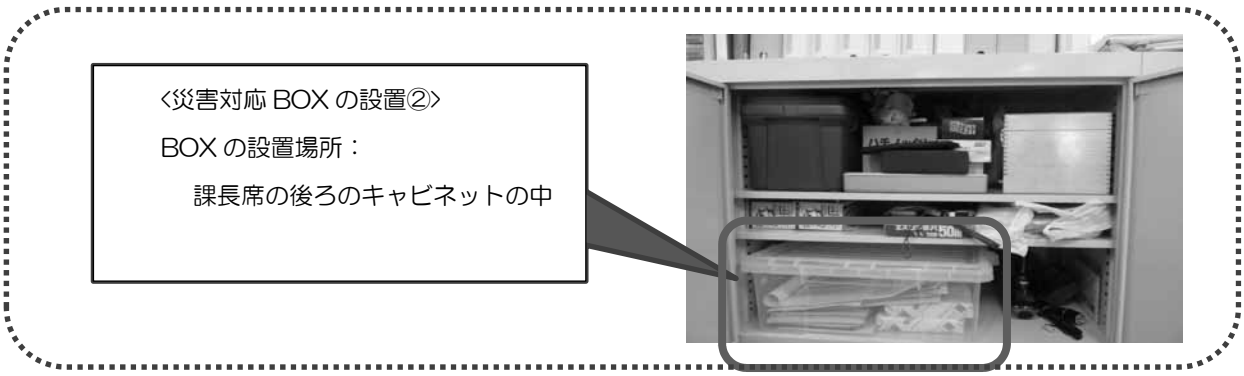
平成 26 年度に災害時保健活動計画の策定を目標にしていた昭島市において、市版の「行動カード」作成に向けた支援要請があり、作成支援のための合同検討会を開催した。

昭島市においては、「行動カード」を作成する過程で、避難行動要支援者リスト※1 の整備、災害時に必要な物品を収納した「災害対応 BOX」の設置、母子健康手帳交付時に配布する災害に関するリーフレットの作成や周知等、幅広い平常時の防災対策に取り組んだ。

〈災害対応 BOX の設置①〉

BOX の内容：

- 防災対策マニュアル
- 発災時保健師行動カード
- 関係機関団体リスト
- 避難行動要支援者リスト
- 市地図を拡大したもの
- 施設の図面
- 帳票類



（3）平成２７年度

①圏域市への出張 HUG 研修の開催

「北多摩西部保健医療圏版 HUG 研修」を、各市が保健師だけでなく事務職や福祉系の職員等も含めた多職種で体験できるように、出張形式で行う「出張 HUG 研修」を実施した。ゲームのファシリテーター等は、市職員の HUG 経験者や企画調整係職員が担当した。

②昭島市での災害時保健活動研修の実施（表 1、2）

災害時保健活動研修では、圏域 6 市の職員計 33 名がシミュレーション訓練に参加した。訓練を実施した後の意見交換において、「行動カードの内容をコンパクトにすると良い」、「分散配置の保健師についても行動カードが必要」、「継続して組織で共有と更新することが重要」といった意見が出された。

また、実践しようと思ったこととして、「職場内で参集状況を確認したい」、「行動カードと災害対応 BOX の作成に取組みたい」、「他部署との情報共有を検討していきたい」等の内容があがった。

シミュレーション訓練では、市の保健センターで実施できたこと、市と訓練の場面設定の段階から意見交換できたことで、より臨場感のある内容となり、行動カード作成に取り組んでいない参加者も、行動カードに基づいた災害時保健活動をイメージできる結果となった。また、行動カードに盛り込む内容を再検討でき、効果的な訓練になった。

（表 1）シミュレーション訓練の主な場面

	場　面	発災後の経過時間	シミュレーションの内容
1	乳児健診実施時に発災	0分	乳児健診実施中で健診来場者 40 名。 負傷者あり。
2	乳児健診担当者によるミーティング	30 分	けが人、来場者及び建物の損傷状況確認。 役割分担。
3	健康課事務室の動き	45 分	被災情報の共有。災害対策 BOX の準備。 保健師行動カードの確認。
4	第１回健康課ミーティング	１時間 30 分	所内体制の確認。所内職員の役割分担。
5	課長、係長打合せ	１時間 45 分	被災状況の共有。活動可能な保健師、応援保健師の必要人員のリストアップ。
6	第２回健康課ミーティング	３時間	情報共有。保健師の役割分担。
7	発災時保健師行動カードに準じた活動	３時間 30 分	避難所担当保健師、地域ブロックリーダーの活動。
8	避難所での活動	20 時間	避難所の本部にて状況確認。健康課題への対応、助言。健康相談。

③「北多摩西部保健医療圏版 HUG 研修運営の手引き」作成

本手引きは、「北多摩西部保健医療圏版 HUG 研修」の質を担保しながら、圏域内で効果的な研修を提供できるよう、当保健所職員向けに作成した。

「北多摩西部保健医療圏版 HUG 研修」は、各市へ出張して開催することで、より多くの職員の参加を得ることが可能となる。特に保健師だけでなく事務職等も含めた組織全体で体験して議論を交わすことで、研修後により効果的に災害時保健活動を進めることが期待できる。

圏域の災害時保健活動対策の推進に向けて、転入した職員や初めて研修運営に携わる職員の研修等で活用して欲しい。

4　3 年間の取組のまとめ

当所における 3 年間の災害時保健活動に関する取り組みの中で、災害時保健活動研修を 3 回開催（シミュレーション訓練 1 回含む）し、出張 HUG 研修を計 6 回実施した。（表 2）

これらの取組を通して、昭島市では「災害対応 BOX」の設置や、市版「行動カード」の策定につながった。さらに、昭島市健康課における幅広い平常時の防災対策が推進された。

また、昭島市の成果を、研修や 6 市課長会、保健師リーダー会等を通じ圏域全体に周知することで、圏域各市の具体的な災害時保健活動に向けた取り組みの、きっかけづくりとなっている。

加えて、日本公衆衛生学会※2 や東京都保健医療福祉学会※3、日本公衆衛生看護学会で発表を行い、内外に成果を伝えている。

今後は、昭島市における取組をモデルに、圏域各市の平常時対策の強化と、発災時の保健活動がより具体化できるよう、各市の状況に応じた「行動カード（各市版）」の作成及びその活用と定着を目指す。

（表 2）災害時保健活動研修、実施内容

	日時	実施場所	実施内容	参加者
25 年度	12 月 17 日（火）	保健所	「災害時保健活動研修」 災害被災地での保健活動の実施内容と避難所運営シミュレーション ①　「災害被災地での頬県活動の実際と課題」 ②　避難所運営ゲーム（HUG） 講師：国立保健医療科学院　奥田博子氏	28 名
	3 月 6 日（火）	保健所	「災害時保健活動研修」 ①　「災害が起きる前に、起きた時に、私たちは何をしなくてはならないか」 ②　「これまでの災害支援の経験から」 講師：千葉大学大学院看護学研究科　宮崎美砂子氏	23 名
26 年度	7 月 22 日（月）	保健所	HUG 研修	13 名
	7 月 25 日（木）	昭島市	出張 HUG 研修	17 名
	10 月 27 日（月）	東大和市	出張 HUG 研修	15 名
	12 月 19 日（金）	保健所	出張 HUG 研修のプログラムを保健所で実施（所内研修）	6 名
27 年度	7 月 31 日（金）	昭島市	「災害時保健活動研修」 第一部　取組紹介 1　保健所の取組紹介　　2　昭島市の取組紹介 第二部　シミュレーション訓練 行動カードに基づく災害時保健活動を想定したシミュレーション訓練とグループワーク 第三部「実際の発災時保健活動と平常時の備え」 講師：千葉県旭市飯岡保健センター　副主幹　渡辺恵美子氏	33 名
	6 月 8 日（月）	保健所	出張 HUG 研修のプログラムを所内職員向けに開催（所内研修）	9 名
	10 月 2 日（金）	立川市	出張 HUG 研修	22 名
	10 月 9 日（金）	葛飾区	出張 HUG 研修	9 名
	10 月 14 日（水）	武蔵村山市	出張 HUG 研修	15 名
	3 月 18 日（金）	昭島市	出張 HUG 研修	11 名

※1：災害発生時に自ら避難することが困難な者であって特に支援を要する者

※2、※3：昭島市と連題発表

Beeプラン始動！～北西圏域の災害時公衆衛生支援システムの構築に向けて～　＜災害時保健活動に関する平成２５・２６・２７年度の取組＞

事業目的

災害発生時、災害時要援護者※等については、その安否確認や避難後の状況把握について特に迅速性が求められることから、圏域各市と保健所とが協力して情報収集に努め、必要な支援につなげていくための災害時要援護者等支援体制の構築を目指す。（H24.7「中間のまとめ」より）

※災害時要援護者･･･要配慮者及び避難行動要支援者（要配慮者のうち、災害発生時に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する者）

Beeプランとは

◆災害時要援護者等に関する情報収集・評価・分析を行い、効果的に必要な支援につなげるための保健所及び圏域各市の協働のしくみ・活動のこと　（H24.7「中間のまとめ」より）

◆Beeプランでは、発災時、災害時要援護者等を中心とした住民の安否確認や避難先の情報収集を行う、保健所と市の担当者から構成される情報連絡体制「Beeチーム」を発動し、災害のフェーズごとに必要な支援を把握するとともに、保健所は圏域の公衆衛生の拠点として必要なマンパワー等のアセスメントや現地とのコーディネートを行う。（プランより）

＜名前の由来＞
Beeプランとは、ミツバチ（Bee）が蜜を集めるのに、花の場所を互いに機能的に情報交換する習性を持つことから、災害時もミツバチのように市と保健所が機能的に情報を共有し、効果的かつ機能的に災害時保健活動を実践できるように、Beeプランと名付けた。

国の動き

災害対策基本法等一部改正（平成25年6月21日公布）

市町村の責務の明確化
「共助」の観点から、住民や自主防災組織等が行う自発的な防災活動を一層促進する責務を有する

改正法の概要（抜粋）
・緊急時の避難所の指定　・地区防災計画
・避難行動要支援者名簿の作成
・被災者支援のための情報基盤の整備（安否情報の提供、被災者台帳の作成）
・市防災計画に当該地区防災計画の内容について策定

地域保健医療推進プランにおける取組の方向性

① 災害発生時の各市及び関係機関等との具体的な連絡体制における実施上の課題等について具体的な検討を進める。
② 保健所及び市の職員等を対象に、災害時要援護者等の救護（要配慮者支援活動の在り方）や避難所 の運営を想定した訓練や研修等を実施し、災害時公衆衛生に対する行政関係者等の意識啓発や課題の共有を進める。
③【救急医療体制整備の動きに合わせ、連携方法等の検討協議】
保健所は、拠点病院や市の地域災害医療コーディネーター等を中心とした医療活動との連携や役割分担を踏まえながら、市担当窓口との迅速な連絡体制の整備や収集すべき情報項目、フェーズごとの支援内容等についての具体的な検討を行い、災害時要援護者等支援体制の整備を推進する。

課題別の取組で目指すところと効果的な災害時保健活動に向けた取組

25年度　圏域各市の情報収集と圏域行政関係者の意識啓発、きっかけづくり

・各市の防災計画等、基礎データ情報収集等
・発災直後の災害時保健活動の具体的なイメージ化と、自らの役割についての確認
　⇒　保健師研修・統括保健師会での情報共有・意見交換
・各市の防災関連部署と市の他部署、地域関係機関との連携促進
　⇒　圏域研修（健康推進、障害･高齢福祉、防災対策主管課等を対象）

26年度「圏域版HUG(※1)研修」開催、「発災時保健師行動カード」の策定支援

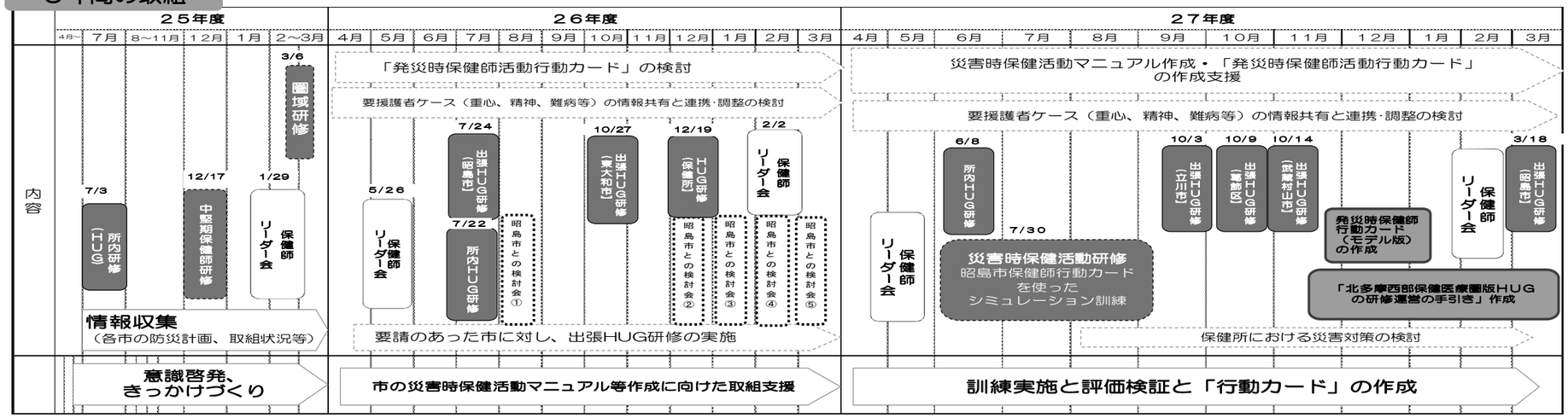
・要請のあった市に対し、災害時保健活動体制整備への具体的な支援
　⇒　出張による圏域版ＨＵＧ研修の開催、災害時保健師行動マニュアル作成等の支援等
・保健所と各市間での重心、精神、難病ケースへの連携・調整ついての検討
・「発災時保健師行動カード」の考案
　⇒　昭島市の「発災時保健師行動カード」の策定への支援

(※1)避難所HUG・・・静岡県の開発した「避難所運営ゲーム」

27年度「行動カード」に基づく訓練の実施、「圏域版HUG研修」手引き作成

・発災時保健師行動カードを踏まえたシミュレーション訓練の実施
・各市の体制に応じた「発災時保健師行動カード」作成に向けたＰＲ
・「北多摩西部保健医療圏版HUG研修の運営手引き（暫定版）」作成

３年間の取組



取組の成果

研修実績
H25　災害時保健活動研修2回
H26　出張HUG研修　2回
H27　出張HUG研修　4回
　　災害時保健活動研修 1回
（シミュレーション訓練含む）

成果
● 圏域市への災害時保健活動に向けた意識啓発
● 災害対応ＢＯＸ・発災時保健師行動カードの考案
● 昭島市で行動カードを始めとした災害時保健活動の計画策定
● 圏域市の具体的な災害時保健活動に向けた取組のきっかけ作り

その他
各種学会（東京都保健福祉医療学会※、日本公衆衛生学会※、日本公衆衛生看護学会）で取組状況を